



～つながり ささえあい かわぐち をめざして～

地域づくり関係機関及び包括的相談支援事業所と地域の居場所運営団体との交流会を開催しました

令和8年1月23日に、重層的支援体制整備事業における地域づくり事業関係機関及び包括的相談支援事業所とみんなの居場所設置支援助成金や地域づくりトークセッションなどで、立ち上がった居場所運営団体等との交流会を開催しました。59機関・団体から67名の参加となりました。参加していただいた機関・団体の皆様ありがとうございました。12活動団体からの居場所の紹介や2団体「おなり歌う会」「ドレスアップカホン」による実践発表、「関係機関と居場所団体を知り地域の人につなげよう」というテーマでグループワークを行いました。

居場所運営団体の紹介では、居場所を立ちあげようと思ったきっかけや居場所に対する思いなど、熱い思いを聞くことができました。また、地域づくりトークセッション後に立ち上がった「おなり歌う会」「ドレスアップカホン」の実践発表では、出席者全員が一体となって大きな声で歌ったり、参加者のカホンの演奏体験や鑑賞など、居場所ですべてに行っている内容を交流会の場で、肌で感じる事ができたのではないかと思います。

参加者からは、「大勢の参加者に驚きましたが、たくさんの出会いがあった。」「いろいろな活動団体を知ることができてよかったです。カホン楽しかったです。」「市内の活動団体のお話を伺い改めて地域の活動団体の良さも感じました。」「たくさんのつながりができました。久しぶりに会えた人も多くてうれしかった。」など、多くの感想を得ることができました。

地域づくり関係機関、包括的相談支援事業所さらに、地域の方との顔なじみ関係が構築されることで、地域で何か困ったときに、気兼ねなく相談することができ、解決できる糸口が見つかるのではないかと思います。次年度も、参加される皆さんが元気になってもらえるような、地域づくり関係機関向けの研修を行いたいと思います。ぜひ、ご参加ください。



令和6年度より重層的支援体制整備事業が本格実施となり、2年が経過します。関係機関の皆様には、多大なるご協力・ご尽力いただき本当にありがとうございました。来年度も引き続き、世代・属性を問わない地域づくりと一緒に考えていけたらと思います。ご相談ください。また、地域の中で、世代・属性の問わない居場所がありましたら、取材に行きます。ぜひ、ご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。



重層事業ホームページ

発行元

福祉総務課 福祉相談支援担当

電話: 048(259)7947

FAX: 048(251)1877

令和7年度 第3号
発行月 3月

～地域の熱い力にふれてみませんか～

地域づくり通信



令和6年度より、重層的支援体制整備事業が本格実施し、2年目となりました。高齢・障害・子ども・生活困窮分野の地域づくり担当や地域の方々により、世代・属性を問わない取組みが各地区で始まっています。世代・属性を問わない居場所づくり、地域づくり始めてみませんか？福祉総務課より地域づくり関係機関での取組みをご紹介します。



～地域の交流の場で多世代交流～

ポッチャたいかい！

令和8年1月27日に、東川口6丁目にある厚川薬局のもっこう館において、汽車ぽっぽ保育園と戸塚地域包括支援センターの初めてのコラボ企画「ポッチャたいかい」が実現しました。

昨年度より、汽車ぽっぽ保育園と戸塚地域包括支援センターで交流の話が上がっていましたが、交流する場所がないと頭を悩ませていました。そのとき戸塚地区において、地域交流に取り組んでいる厚川薬局の厚川さんに、戸塚地域包括支援センターが相談したところ、快く場の提供をしていただき、今回もっこう館でのコラボ企画を開催することができました。

当日は、厚川薬局の厚川さんが見守る中、汽車ぽっぽ保育園年長組10名、地域包括支援センターが周知した10名の高齢者が参加し、合計20名でターゲットポッチャや園児のけん玉披露、プレゼント交換を行いました。

ターゲットポッチャでは、園児と高齢者が混合チームをつくり、交互にボールを投げて、得点を競い合いました。

最初は、初めての顔合わせということもあり、緊張している様子が見受けられましたが、ゲームが続くにつれて、笑顔や互いに声掛けする様子が増え、高得点が出たときや、あと少しで高得点というときには、歓声が上がりました。

けん玉披露では、披露が進むにつれ、技の難易度も高くなり、技が決まると、大きな歓声と拍手があがりました。

最後は、プレゼント交換。園児が書いてくれた手紙を読み、嬉しそうにしている様子や、「絵が上手だね」「上手にかけたね」と声をかけたり、高齢者が園児をほめる様子がうかがえました。参加した園児からは、「楽しかった」「また遊びたい」と話が聞かれ、高齢者からは、「ひ孫がないので、触れ合うことができてよかった」と交流できたことに対して、良い感想を双方から得ることができました。

最初は、場所探しに苦労し、公園でやろうかなどと、案が上がっていたこともありましたが、地域の交流の場で開催することができました。園児たちは、もっこう館の裏の庭に実っている夏みかんについて、厚川さんより説明を聞いたり、遊んでから保育園へ帰りました。高齢者が園児との交流により元気を



もらえるのはもちろんですが、園児にとっても、地域の方や地域の居場所を知るきっかけになったことは、保育園だけの経験だけでは、得ることのできないことではないかと思います。今後、園児たちが成長したとき、この場で交流したことを少しでも、思い出してくれたらと思います。



つながり ささえあい かわぐち

子ども

高齢

～ 多世代交流を続けて3回目！ スキップ川口保育園とのコラボ ～

オレンジカフェヒマワリ クリスマス交流会

令和7年12月17日、芝南公民館にて、芝地域包括支援センターのオレンジカフェヒマワリと、スキップ川口保育園によるクリスマス交流会が開催されました。

今回の交流会は、令和7年7月30日に行われた高齢者と園児によるポッチャを通じた交流会、9月17日の交流会に続いて、今年度3回目の取り組みです。最初は緊張していた園児たちも楽しい活動を重ねていく中で、あっという間に高齢者と打ち解け仲良くなっていました。

参加者は、オレンジカフェヒマワリの参加者22名、スキップ川口保育園4・5歳児クラスの園児22名、ボランティアのかた8名の合計52名でした。

前半は、針金入りのモールを使った「リース作り」を行いました。針金入りのモールを、太いストローにうまく巻きつけられず困っている園児を、高齢者が手を添えて優しく教え、子どもたちは笑顔になりました。また、席を近づけ合ったり、モールを交換して色違いにしたりと、自然に交流が生まれていました。

後半のレクリエーションでは、「ボール色合わせリレー」を行いました。2本の棒を2人で持って、息を合わせて紙コップの上のいかに早くカラーボールを乗せるかを競いました。

休憩では、園児が乳酸菌飲料のアルミ蓋が開けられず困っていると、隣にいた高齢者が開け、園児は嬉しそうに飲んでいました。その後、園児たちは高齢者が飲み終えた紙コップを率先して片づけている姿が見られました。

2つ目のレクリエーションでは、「風船リレー」を行いました。2チームに分かれ、高齢者と園児が向かい合ってすずらんテープを持ち、タイミングを合わせて風船を飛ばし、ゴールの方向へつないで行きます。風船が思いもよらない方向へ転がったり落ちたり、どのチームも白熱していました。

最後、お互いの感想を言い合う場面では、高齢者が「楽しくて、曲がっていた背中が伸びちゃったよ」と嬉しそうに話されると、周り的高齢者も笑顔でうなずいていました。園児が「今日は忘れられない思い出です！」と言うと、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。別れ際も「またね！」とお互いに手を大きく振り合い、あたたかく素敵な交流会でした。

交流会によって、地域での顔見知りを増やし、地域とのつながりや安心感が育まれるきっかけになっていると感じました。



地域づくり通信

令和7年度 第3号

～地域づくり関係機関研修会がきっかけとなりコラボが実現～

子ども

地域

障害

南鳩ヶ谷地域子育て支援センター ハッピークリスマス

令和7年12月20日南鳩ヶ谷地域子育て支援センターにおいて、『ハッピークリスマス』が開催されました。昨年に引き続き、地域の自治会長や役員の方を招待し、民生委員や、かつて支援センター利用者であった地域の小学生・中学生OB、日頃利用しているパパ・ママも運営側に回り、幼児、小中学生による特技披露、ママさんのハンドベル演奏、パネルシアター、パパサンタと遊ぶなど、参加者が一体となったクリスマス会でした。小さな子を持つパパ、ママにとって、OB達の特技披露を見ることは、子の成長を想像するきっかけにもなっていると、参加した乳幼児のパパ・ママより感じる事ができました。

今回の新たな取り組みは、障害のある方とのコラボ。イベントで使用するマスコットは、地域子育て支援センターが鳩ヶ谷地区の地域活動支援センター「さくらハウス」へ依頼し、利用者がつくったものです。主催者は、参加者へ、マスコットをさくらハウスが作ってくれたこと、さくらハウスがどのような施設であるか、利用者が心を込めて折ったことを説明していました。参加者は、マスコットをクリスマスツリーに飾り、最後はマスコットをお土産として持ち帰っていました。

このきっかけになったのは、10月15日に開催された地域づくり関係機関研修会のグループワークで、機関や個人の強みを抽出し、それらを分野・機関ごとに組み合わせる企画案として出した内容の一つでした。

さくらハウスにとっては、今回初めての取り組み。直接利用者がイベントに参加することはハードルが高いかもしれませんが、イベントで使用するマスコットを作成することなら協力できると、快諾されました。実際取り組んでみて、最初は、数名で制作に取り掛かっていましたが、周囲が取り組む姿をみて、「自分もやってみようかな」と、5名の利用者が取り組んでくれたこと、後日イベントの写真がさくらハウスに届き、マスコットを持った笑顔の子供たち達の様子を見て、利用者が喜んでいとスタッフの方から教えていただきました。

研修後の短い期間の中で、開催の準備や調整は、関係機関の苦労は多かったと思いますが、参加された地域の方々が、イベントを通じて、地域の機関や取り組みを知り、つながりができた素晴らしいイベントだったと感じました。「世代属性を問わない居場所・交流を担う関係機関が顔を合わせて、考えることで、新たな企画が生まれる。」まさに、そのことが体現されたイベントでした。

